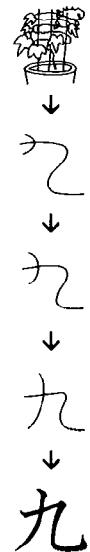


九

一年
画数 2
筆順 ノ 九
クン キュウ・ク
こここの・こここの二つ

成り立ち



まぎりくねつてのびていった『あさがお』などのつるを、それいじょうのびないよう、さきをしつかりととめたかたちをあらわした字です。

“どとのつまり（窮極）”といいういで、これいじょうのすう字はないといふ。『こここのつ』というかずをあらわしました。

中国では、“どとのつまり”を“キユウ”といいますが、これをあらわした字には、“窮”“究”などがあります。“ク”という音は、“苦（くるしい）”とおなじなので、わがくにはきらわれて、“キユウ”といいういかたをこのんでつかいます。

“かづがおおい”いみによくつかわれます。

休

一年
画数 6
筆順 オン
クン
ノイ
キユウ
やす||む||まる||める

成り立ち



たんばではたらいているひとも、みちをいくひとも、やすむときには、たいてい“木”的したをえらびます。それで、“木”と“人（ひと）”とをくみあわせて“やすむ”といいうみをあらわしました。

“やすむ”とは「からだを“やすめる”ことであり、それは「からだが“やすまる”」ことですから、“やすめる”とも“やすまる”ともつかいます。

熟語例

- ▽ “休日。”だというのに、一にちじゅうはたらいて、“休息”するひまがありませんでした。
- ▽ ことしの“夏休み”にはしたいことがやまほどあります。
- ▽ “休息”（「息を休める」ということで、「からだを休める」ことです。）
“休暇”（休日でない日に、とくべつなりゆうでゆるしをもらつて休むこと。）
- ▽ “休息”（「息を休める」ということで、「からだを休める」ことです。）
“代休”（「代わりに休む」ということで、「休日につとめて、その代わりに休日でない日に休む」とことです。）
“日休暇”（“日”と“休暇”とということばがあり、この“りやく”とみることもできます。）
- ▽ 定休（定は“きめる”こと。まい月、またはまいしゅう、日をきめて休むこと。例：あのデパートの定休日は月よう日です。）
- ▽ 連休（連は“つづく”こと。休日がつづくこと。）

使い方

- ▽ あなたのおりるえきは、ここから“九つめ”です。
- ▽かけざん九九をおぼえていないと、かけざんはできません。
- ▽ 九州りよこうにいきました。
- ▽ 九州の一本毛（九牛の一本毛）（九牛はたくさん牛といいうみ。たくさん牛のなかのただの一本の毛、といいうみのことばで、ほんのわずか）というたとえにつかいます。）
- ▽ 二拜九拜（中国のあいさつかたちですが、「ていねいになんでもおじぎする」というみにつかいます。）
- ▽ 九死に一生をえる（十のうち九つまでは死ぬようなあぶないじょうたいのなかでたすかる、といいうみのことばで、「あぶないのちがたすかる」とこと。）
- ▽ 九州（中国ではむかし、ぜんこくを九つにわけて、それぞれに“〇州”というなまえをつけました。それで、中国ぜんたいのいみにつかいます。わが国では、むかし、ちくせん、ちくご、ひぜん、ひご、ぶぜん、ぶんご、ひゆうが、おおすみ、さつま、の九つの国を九州といいましたが、この州は“くに”的みでした。）

熱語例

- ▽ 九牛の一本毛（九牛はたくさん牛といいうみ。たくさん牛のなかのただの一本の毛、といいうみのことばで、ほんのわずか）というたとえにつかいます。）
- ▽ 九死に一生をえる（十のうち九つまでは死ぬようなあぶないじょうたいのなかでたすかる、といいうみのことばで、「あぶないのちがたすかる」とこと。）
- ▽ 九州（中国ではむかし、ぜんこくを九つにわけて、それぞれに“〇州”というなまえをつけました。それで、中国ぜんたいのいみにつかいます。わが国では、むかし、ちくせん、ちくご、ひぜん、ひご、ぶぜん、ぶんご、ひゆうが、おおすみ、さつま、の九つの国を九州といいましたが、この州は“くに”的みでした。）